

課題認識と現状分析

● 現状の課題:

- 富山県庁周辺エリアのポテンシャル(歴史・水辺・緑)が十分に活かされていない。
- 既にある観光資源は素敵だが、インスタ映えなどを狙った側面が少ない。
- 商店街がシャッター街(近年は徐々に改善しているが)で、訪問者が少ない。
- 駅から商店街までは片道1km以上歩くため、商店街への集客はそれなりに魅力が必要。
- 平日に観光客、休日に地元の集客が少ない。
- そもそも、今回の対象地域に明確な魅力がない。わざわざ富山駅に訪れるモチベーションにならない。

● 提案の概要:

- ガラスアートを活用し、歴史と自然を活かした動線とアートを軸にした地域活性化を図る

富山市独自の芸術風土を作る

ありたい姿の実現

● アートを通じたコミュニティ形成:

- 産学官民の連携によるガラスアートプロジェクト
- 幅広い年齢層が芸術に触れ、創造し、交流できる場を提供

● ガラスアートの動線形成:

- 富山駅から商店街までの動線をガラスアートでつなぎ、歴史・水辺・緑を活かした魅力的なエリアを創出

● 商店街の復活と将来像:

- 商店街をアートギャラリーとして再生し、訪問者を引き込み、地域全体を活性化

アートの分散

- 訪問者が作成したアートが商店街や駅に掲示される。
- 商店街での投票などでベストアートを決めるなどのイベント開催。
- 自分のアートが掲示される経験は高揚感を生み、再度訪れるモチベーションになる。

アートの影響

- 独自のアートをもとにした観光資源の形成。
- アートが溢れる商店街になれば、歴史的な店に加えて、若者向けの店も増える。
- 外国人観光客の増加、地元民にとっても憩いの場となり、土日の訪問先の選択肢となる。



アートの創造

- 旧NHK富山放送会館跡地をアート創造の場として利用。
- プロの芸術家に対して環境の提供
- 訪問者に対してもアート作成の機会を提供。
- 作成されたアートは県庁公園前に掲示。インスタ映えなどをねらった観光資源となる。
- さらに、アートは商店街や駅にも分散して掲示。

効果と独創性



● 効果:

- ガラスアートプロジェクトで地域の持続可能性を高め、市全体に付加価値をもたらす
- 商店街の復活で地域経済を活性化

● 独創性:

- ガラスアートをテーマにした新たな文化創造
- 地元住民と観光客が共同で作り上げるアートイベントやプロジェクト